

しも事あらたにそうは感じないわけなんです。この頃の自動車ドライブにしろ、二時間あれば箱根の山の上へ行つてしまふ、そこでメシを喰つたりしても、それでは一向に自然に帰るといふ気がしないんだな。

ならないのですよ。実質的にはもつとよくなっているのがね。それより先にいい空気が自分の頬をなでてくれるという喜びの方が大きいのですよ。つまりオートバイにしろ、自動車にしろ、自転車にしろ各々全

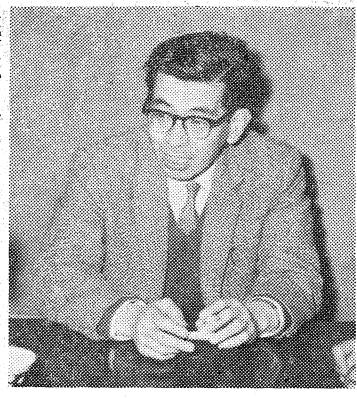
いふことになるのかな？
山本 僕はね、あのテーマがでた時から

いふ意味なのかな？
山本 ツーリングがあつたからペダルを踏むことを覚えたということですね。
鳥山 レースをやつて「ペダルを踏むこと」を学んだのではないということだな。

山本 「ペダルを踏むこと」は小さい頃からやつていたにもかかわらず、自転車は本当はそういうものではないということをお教えてくれたのもツーリングクラブだし、それから長時間、連続的に踏んでいて面白

いということをお教えてくれたのがツーリングそのものであつたわけですよ。僕はね、どういふ場合が、どのような時がペダルを踏んでいて面白いかという例はたくさんありますが、理論的にはそれ以上云えない面白味を感じるのです。鳥山さんの云つたことも真実だし……。

萩原 結局、乗つて踏んでいる時がすべ



に楽しいんでしょ？

山本 それでいいんですよ。

萩原 それにプラス自然があればなおさらよらしいということでしょう？

山本 そうなんです。いくら「ペダルを踏むこと」が楽しくても五〇米毎に信号のあるところでは決して面白くないわけですよ。

萩原 やつぱり、その中に自然に帰ると

いふ人間の気持が多分に働いていると思ふんですよ。

山本 それでね、年から云つても丸タイヤで素つとばす年でもないでしょうし、脚力から云つておよそそぐわらないだけども、丸タイヤでつばしつて行つて舗装がきれてしまうがなくて砂利道を走る時でも結構面白いですね。それは風景を見るとかいつたそういうものではないです。

今井 今の三人の話を整理してみると、まず「自転車に乗ること」が面白いのですね。

一同 そうです。

今井 それにプラス何かがあつて、そこに個人／＼の好みがあるのでということですね。

萩原 それはやはり年令に關係するな……

ペダルをふむ楽しみの上に

今井 そこでね「自転車に乗ること」が面白いということは乗っている人皆が分つていて、それにプラス、アルファの問題ですね。どうやつてそれを倍加したり、「乗つて面白い」という根底に立つて別の楽しみを見つけたかということが問題になつてくるような気がするのですが……

するとここで、今までの話は非常に個人的な話ですが、萩原さんにしろ、鳥山さんにしろクラブの指導をやつていかなければならないし、又僕等は一般の人に呼びかけていかなければならないというわけで「好み」をはずれた話をしなければならぬのです(笑)。

萩原 それが結論だな(笑)。

今井 いやいや、そうじゃない、これから本題に入るわけですよ(笑)、今までは皆さんの好みを聞いたわけですから(笑)。

鳥山 本題に入る前の幕ですな(笑)。

今井 まあ、とにかく今までのところで「自転車に乗ること」は面白いがそれを本当にエンジョイする(喜ぶ)方法を皆知らないのではないかと気がするんですよ。

萩原 それはある程度乗つた人の話で、一段階飛躍してしまつていのではないだろうか？今の話は、自転車を買つて「ペダルを踏むこと」が面白くしようがないという人達を底辺とした上のことなんです。

今井 それより下の話があると思うんです。

今井 下という？

萩原 「ペダルを踏むこと」がなぜ楽しいかということですよ(笑)。

鳥山 僕は、多くの人はそれが分つていないのではないかと思うのです。

萩原 昔、やはりサイクルの座談会で話したことがあるんですが人間の成長する段階をずーつと考へてみるのですよ。僕は学生の時分から山は好きでいつも出かけました、もつぱら低山徘徊の方で又多勢の人のいるところは嫌いで静かなところが好きだつたのですよ。それで秩父へ行くようになったのですが、山に登る人達の年令的な変化というものは見当がつくのです。それはね、若い時分には山のテツペンに行くし又行きたがるのです、俺はどこの山のテツペンへ行つてきたというわけで山に対する

ひとつの征服欲があり同時に自分達の誇りにするのですね。これが年をだんだんとつてくると、山のテツペンの感激も回が重なるしだんだんなくなつてくるんですね。するとその次は「沢登り」「岩登り」という段階になるわけですよ。ひとつの技術的な段階に入つてくるわけですよ。いわゆるこれが山では中堅層で更に進んで年をとると、山村民俗とか山の麓の古い村の古老の話を聞くとか、これらが大体山での古い人達のいき方ですよ。まあ一概にはつきり割りきれませんが……。これらを見ていて思うのですが、サイクリングも非常によく似ているのですよ。というのは、若い時分の山のテツペンというのはスピードなんだと、とにかく一日でどこまで行つてきた、何軒走つた、時速何軒でたという、つまり征服欲だね。これが大半を支配しているのですよ。進むといわゆる「沢登り」「岩登り」の段階では、自転車の技術的なものに興味を見つけたのですよ、それは「自転車に乗る」技術と「自転車」というものに関する技術に向つてくるわけですよ。それをすぎると低山徘徊的になつてくるのですよ。山の場合には、本当は山というひとつの雰囲気の中にひたつて歩くことが楽しいのですよ。するとどこでもいいのですよ、人がいなくて静かで、天気が景色がよければいいのですよ。というのはさつき山本さんが云つた「ペダルを踏むこと」による楽しみ、そして「ペダルを踏む」というひとつの雰囲気なり気分を味わうということになると

デートは 自転車です!!



サッサッとペダルを
ふんで上気したピン
クの頬は素晴らしい魅
力ですが…

サン号 エキスプレス

婦人用 ¥ 19,500
分割払価格



JIS 表示許可工場
No. 6100

株式会社 秀工舎サン号自転車工場
本社工場 東京都北区田端町845 TEL(02)7101-3
大阪支店 大阪市阿倍野区美草町3の34 TEL(07)1922

同じものだと思うのです。これは初歩から老令に至るまでのどの段階にも共通なことで、そういったもの上に更に自分の好みに応じて楽しみを作りあげていくことですね、つまり、自分はこれが面白いんだという趣味の段階での分化がここからはじまっています、ある人はお寺を見るのが好きだ、おれは嫌だということになっていくのではないのでしょうか。特に学者のようにつっこんだ研究ではないが、自分の好みに応じた専門科ができてくるわけですよ(笑)。これは趣味であつて学問ではないのだから(笑)専門といつたつてそんなにむずかしいものではないですよ、ね(笑)。

今井 それに関連してですが、先日の菅沼さんとの対談の時の話ですが、菅沼さんは、今の若い人は手段にしか面白味を見出さないのでないだろうかということだったのですが、これは中間の段階だという風に解釈できるのでしょうか? 例えば「岩登り」の場合はこの先に何かあるのかしらということ、「岩登り」のテクニクを憶えたのだが、今の人は「岩登り」そのものが面白くて岩を登り、その先に何かあろうとそれ程面白味を感じていないのではないかとというような気がする、と云つておられるのですが……。

鳥山 分化していけばそういうことも云えるわけだな。
萩原 僕等の考え方からすれば菅沼さんの考え方は非常によく分るし、僕等も非常に近いんだな。勿論まだそこまではいつてやしないけれどね(笑)。あの汽車の中では風景を見て、週間誌は家へ帰つてから寝床の中で読めばいいというのは、確かにあの気持ちよく分るんですよ(笑)。旅に出たら、行つて帰つてくるまで一杯その楽しみ享受する気持ちがでないんだな。行つたからには努力して楽しんでくる。僕達にしてみればたえず道を見ているよ(笑)、あ

その道はいいかなとか(笑)、表の景色に興味をおぼえますね。

山本 しかしどうなんでしょうかね、行為だけを問題にすることに疑問があるのですが、先人が必要あつて憶えた技術でも、その技術そのものが面白ければ、それだけが好きだという人ができて当然な話ではないのでしょうか。別によつてからそこに何があるということを考えても大丈夫ですよ。

鳥山 それはそうだな、山へ行けば沢もあるしそこを歩くだけの楽しみがあり別に頂上まであがる必要もないわけだな。沢だけでも充分楽しんで帰つてこられるのじゃないかな。

萩原 僕等が推測するによれば、オートバイなら例え箱根まで行つて帰つてくるにしろその素つとばすスピード感を楽しんでくるわけですよ。それならそれでいいし。
山本 うなづけるわけですね。

鳥山 それはペダルを踏んで楽しんでいけると同じことですよ。

萩原 菅沼さんの云われるような疑問はあるけれども、それがその人の楽しみみならず例え岩登りだけでも一向にさしつかえないですよ。

山本 ただ他にもあるということも言いたいが……。

自転車そのものの趣味

萩原 そうそう。サイクリングが盛んになる前の時代に僕等が色々やつてみたんだが、家の近所にやはり俺は「自転車狂い」だというのがありましたよ。彼の車を見るとランプを三つも四つもつけて、そうです、まず自転車屋にあるあらゆる附属品がついているといったものがありました。その人はそれで楽しんでるわけですよ。だからお前は間違っているよとは云えないわけです。ただその人の視野がせまかつたということだけなんだね。もつと視野を広げ

ければ面白いものがありますよと云えるだけなんです。それ以上その人に云う権利はありませんよ。

ク云つたんでは彼等にしてみれば心外なんだな。

です。それは道楽だよ。しかしボックスカメラをいじくりまわして……

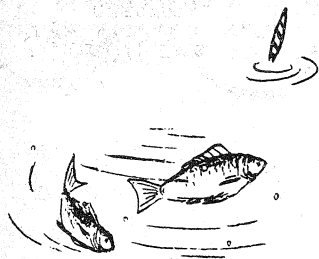
人のことをいぢいち云うことまで……

フナは 足で釣れ



とかく大釣は

自転車釣師に
してやられますがね



サン号 エキスプレス

¥ 19,500
分割払価格

JIS表示許可工場
No. 6100
株式会社 秀工舎サン号自転車工場
本社工場 東京都北区田端町845 TEL(02) 7101-3
大阪支店 大阪市阿倍野区美草園町3の34 TEL(077) 1922

沼さんとの対談の話ですが、昔沼さん
は、今の若い人は手段にしか面白味を見出
さないのではないだろうかということだつ
たのですが、これは中間の段階だという風
に解釈できるのでしようか？ 例えば「若

の気持ちよく分るんですよ(笑)。旅に出た
ら、行って帰ってくるまで一杯その楽しみ
享受する気持ちがでないんだ。行つた
からには努力して楽しんでくる。僕達にし
てみればたえず道を見ているよ(笑)、あ

萩原 僕等が推測するによれば、オート
バイなら例え箱根まで行って帰ってくるに
しろその素つとばすスピード感を楽しんで
くるわけですよ。それならそれでいいし。

山本 うなづけるわけですね。
ついているといつたものがありました。そ
の人はそれで楽しんでるわけですよ。だ
からお前は間違っているよとは云えないわ
けです。ただその人の視野がせまかつた
ということだけなんだね。もつと視野を広げ

げれば面白いものがありますよと云えるだ
けなんですよ。それ以上その人に云う権利
はありませんよ。

今井 そうですね、その「視野」という
言葉はズバリそのものなのですが、視野の
せまざからいつか飽きがくるのじやないか
と思うし、こういうものもありますよとい
うことを教えてあげなければと云えさかそ
こに焦りを感じるのです。

山本 老婆心だな(笑)。

鳥山 今「視野」のせまいということが
でたけれどそんな人は、ツーリング、旅と
いうことを念頭において自転車に入つてき
たんでないんだ。それをいきなり「視
野」がせまいと云えないんでないだろう
か？

萩原 自転車をいじくる趣味と走る趣味
とがあるわけですよ。

鳥山 走るために彼等は自転車を始め
たのではないんだ。その走り方等をトヤカ

ク云つたんで彼等にしてみれば心外なん
だな。

萩原 自転車そのものをいじる趣味も
つと「視野」を広げれば道があるはずす
よ。又走る時でも、ただ無茶にとばすだけ
の人にはもつと面白い走り方がありますよ
といひ得るわけですね。それを、即人を批
難するということに考えることは当らない
と思います。

鳥山 何だか変なものを一杯くっつけて
いるからあれは駄目なんだと云つちや、そ
んな人は気の毒なんだな。

山本 それはそうでしょう、そうする事
が道楽だからですね……。

鳥山 ツーリングを嫌いな連中はこれは
始めから問題が違ふのですよ……。

萩原 こういうことが云えるんだよ、高
級カメラを五台も六台も持つている連中が
別に写真をとるでもなし、ただシャツター
を押してみてもその音だけを楽しんでるん

です。それは道楽だよ。しかしボツクス
カメラをいじくりまわしてとにかくうつし
まくつている人もあるわけですよ。自転車
でも安い車を買つてとにかく乗りまわして
いる人もいれば、高級車を二台も三台も持
つて朝から晩まで磨いている人もいるわけ
ですよ。NCTCのクラブの場合も百何十
名だかいますよ、その中でいつもミーティ
ングやクラブランに出てくる人がいます
よ、又クラブが十五周年を迎えよとして
いる今、僕等より古いメンバーで名前だけ
は聞いているがまだ一回も顔を拝んでいな
い人がいるんですよ、しかしそれを一度も
会つていないからつて出てこいというわけ
にはいけませんよ。その人はまず会費を
払うことが楽しみで(笑)、クラブの機関
誌、毎月の通知をもらうことが楽しみなの
ですよ。会費さえ払つていけばクラブ員と
しての義務を果しているからそれ以上何を
要求することもできませんよ。そうなる

と
人のことをいぢい云うことはできなくな
りますよ。その人が楽しんでるんだから
楽しきはツーリングだけでない
鳥山 もう一寸立場を変えて云うと我
々は今皆サイクルツーリストの立場からし
やべつてゐるわけですよ。これは前提が
たよつてゐるんだ。自転車を買つて乗る
人が全部サイクルツーリストになるかとい
つたらそうではないですね。物指しをツー
リングということだけで当てることはおか
しいな。ツーリングクラブであるならその
やり方その他にカラーがあつていいんだ
けれど、「サイクルリング」というのはツーリ
ングだけじやないし、もつと広い分野があ
るわけですよ。例えばC・T・C(英国)にし
ても本部の名前はツーリングクラブだが、
実施面の各支部のクラブのやつてゐること
はツーリングの他にタイムトライアルとか
レースを大いにやつてゐますね。
結局、考えてみるとツーリングというの

は個人のものであるような気がするのです。ツーリングの場合は好みややること自身がそうですがレースの場合にはこれは団体のものですからね。

外国の例をみてもレースの場合は確かにクラブというものが土台になっていますが、クラブが主体でツーリングの実施ということは殆どどこでもやっていないようですね。ツーリングというのはあくまでも個人的なものでクラブは社交の場としてのクラブであり、情報交換、共通の話題での楽しみ場所だと思ふのです。どこのクラブでもやれるレースは邪道であるとかないとか議論していますが、サイクリングとはこれだけなんだとは絶対に云いきれるものではないと思ひます。

今井 そうですね、ただ時々飽きるといふ人の話を聞くのです。それは面白くないということ、自分なりの楽しみを見出せなかつたのではないかと気がするわけです。こういうのがあ、ああいうのがあるといふことを知らせてあげれば、その内から自分自身に合ったものを見つけたことができるのではないかと思ふのです。するとでは、どういふことがあるかということになるのです。考えられる色々なことを挙げてみる必要があるわけですね。ツーリングだけでもこれは種々様々なものがあるといつた具合ですね。

鳥山 要するにここで、いろいろな楽しみ方の商品見本やカタログを作つて、その中から自分の環境や好みに応じたものをお

とりなさいということですね。

山本 カタログね……(笑)。

萩原 社交の場としてのいわゆるクラブライフというのを考えてみると会うこと語ることが楽しいということになるんだな

クラブライフ

鳥山 共通の話題だね。

山本 それがないと面白くないよ。

萩原 それがないやミーティングにいつたつてつまらんですよ。僕なんか仕事の都合で遅れてもうミーティングが終りかける頃にいくことがあるんですよ。わざ／＼タクシー代はずんですつとばしていくのです。ではそれまでしてなせいかとどうとやつぱり皆の顔を見るのが楽しいんだな。何を話そうと皆にまづ会うことが楽しみですね。それからサイクリストは皆割合に孤独だから気の合つたもの同士の個人的に走ることも別な楽しみといえると思ふのです。やはり大勢でいつたんだは駄目ですね。僕なんかいつも一人で出かけますよ。まあ、走ることは一応別にして僕なんかはクラブというものがあつた方がやはり楽しいね、クラブに入らずに結構楽しんでる人もいますよ、それはそれでいいのです。

鳥山 クラブライフというものの楽しみを考えてみると、ライフといふものだけだと、砕いた言葉で云えば人間互いのつきあいだな、それができない人はクラブに例え入つたとしてもクラブライフの楽しみは味わえないね。

萩原 しかし、それは指導の如何による

のではないだろうか？クラブの指導者はこいつたこともたえず心掛けていて、クラブの雰囲気はどうしても落し込めない人をどうやつたらうまく誘えるかということを考えてなければならぬですね。そういつた方向にもつていく努力が大切だと思ひます。あの人は駄目だからということではちやつたんではまずいと思ふな。

いつも疑問に思ふのですが、一つのプランとして例えば史蹟巡りをやるのです、史蹟巡りそのものが手段となり、リーダーがつれて歩くわけですよ。ところがそのリーダーがその史蹟について豊富な知識を持つていなければ面白くないのです。朝日ですかね、例の「文学バスハイク」といふのがありますね。いつまで続くかと思つて見ています。野田宇太郎が相変らずひつぱつて歩いてるのです。あれはやつぱり野田宇太郎の知識が物を云つてるのであつて、「楽しみ」は色々あるのだがそれを教える人は相応な知識をもつていないとできないということですね。

知識が必要だ

萩原 だからさういふ知識を持つている人にきってもらうことが一番いいですよ。この間のうちの行田の古墳群を見にいつたクラブランで、向うの教育委員会の人が詳しく話してくれたのです。なるほどということ

今井 日本人の特有性なんじゃないかなと思ふからくるんでしようが……(笑)、とにかく、くるんでね。

山本 まあ、今ここで話合つて「楽しみ方」のカタログといつたことは、それを作るのに時間もかかるだろうし又僕が感じて居る瞬間／＼の楽しみみだけでも挙げればきりがありませんね。例えばここで天気がよく正月のように雪の降つた翌日なんか山を見ようと思つて走つてみる気をおこすのです。これも楽しみの一つですね。そこで武蔵野をすつと走つていつて向うに山々が見えてくるわけですよ、ところが自分で考えてみてその山々が何だろうかといふことを知らなければ恐らく走つてみようなんていう気持にならないと思ふのです。つまり「楽しみ」をふやすといふことは非常に知識が必要になつてくるわけですよ。

山本 その、なるほどなという面白さを感じとることですね。

萩原 僕がね、田無から箱根方崎の方へ走つていつて山がすつと見えてくるとたまになく面白いですよ、それはその山の名前を全部知つて居るから、見ると自分で「あそこに見える」といつて喜ぶわけですよ。知識をなるべく豊富に持つこと、それが「楽しみ」をより広くする一つの方法ではないかと思ふのです。僕がよくいうんだが、人からそれらを受けることはいいが、

自分てサイクリングに出かける時そこ何かテーマをもつ方がいいとね。例えば多摩丘陵のことだつたら俺に聞けといふ位の人へることししろ、見ることにしろ、話すことにしろ、皆さうですよ。

自分てサイクリングに出かける時そこ何かテーマをもつ方がいいとね。例えば多摩丘陵のことだつたら俺に聞けといふ位の人

へることししろ、見ることにしろ、話すことにしろ、皆さうですよ。

ん天野さんに聞いたのです、そうしたら天野さんが一喝して「案内犬がうらやま

た、その頃と今とは違ふのかな、この考え